

第14回統合小中学校推進協議会 候補地の絞り込み理由

令和8年5月29日

比較結果の対象	候補地	結果	意見の内容				
			【交通アクセス・安全】	【敷地特性・環境】	【将来性・村づくり】	【コスト・実現性】	【その他】
既存校舎 活用案 (東小 vs 南小)	南小	22 / 22	- 道路が広く通学路の見通しも良いため安全性が高い。 - 東小に比べスクールバスのランニングコストを抑えられる利点がある。	- 敷地が広く、設計の自由度が高い。 - 日当たりも良好で、東小のような敷地の狭さによる小中併設への制約がない。	周辺での住宅建設や移住者の受け入れが期待でき、世代交代や定住促進を通じた村の活性化・発展性に寄与する。	道路拡幅の必要性が低く、スクールバス運行費等のトータルコストを抑えることが可能である。	評価点が高く安定したよさあり。既存活用でも解体でも場所としてのよさは南がまさる。
既存校舎 解体新築案 (東小 vs 南小)	南小	22 / 22	- 周辺道路が広く見通しが良い。 - スクールバスの運行や通学の安全性が確保されており、道路拡幅の必要性も低いため、アクセス面で非常に優れている。	- 敷地面積が広く日当たりも良好。 - 校舎と校庭のアクセスが良い。 - 工事車両の通行がスムーズである。 - 設計の自由度が高く、土地としてのポテンシャルが安定している。	- 周辺に住宅を建てやすい環境にあり、村の発展や人口増につながる拡張性を備えている。 - 高速道路や病院にも近く、利便性が高い。	道路整備費用やスクールバスの運行コスト、解体費用の有無などを総合すると、他案よりも費用が抑えられる。	- 新道による交通流の変化や、試掘結果の差を上回るメリットが期待できる。 - 候補地の評価点数をくつがえすだけの理由がない。
新候補地比較 (福祉センター東 vs 鎌沢)	鎌沢	18 / 22		広大な敷地面積を有しており、住民用の生活道路を新設する余裕や、設計における高い自由度がある。	- 人口増や活性化が期待できる立地であり、他地域へのアピール力も高い。 - 昭和中学校に近く、村の理解も得やすい。	- 埋蔵文化財のリスクが低く予定通りの工期が見込める。 - 杭打ち費用は発生するが、バス運行費との相殺や、必要最小限の土地利用によるコスト抑制が可能。	候補地の評価点が高く、逆転する要素がない。
同上	福祉 センター 東側	4 / 22			村の中心的な位置にあり、役場などの主要施設へのアクセスが良い。	道路状況も許容範囲内で、くい打ちの必要がない等、全体的な費用を安く抑えられる。	